

2006年3月15日

各 位

東京急行電鉄株式会社

大井町線事故に関する緊急対策の実施について

東京急行電鉄（本社：東京都渋谷区、社長：越村敏昭）では、3月11日（土）に大井町線で発生した、列車走行中の客室・乗降用扉の開扉事故について、以下の通り緊急対策を実施いたしますのでお知らせいたします。

事故原因について

現在、国土交通省航空・鉄道事故調査委員会において調査中ですが、調査の過程で、車両の扉を開閉する電気回路の一部にショートが確認されたと聞いております。

緊急対策について

すでに3月12日（日）始発までに全車両の緊急点検を実施し、事故車両以外の車両の電気回路には異常がないことを確認しておりますが、上記の状況を踏まえ、新たに以下の通り緊急対策を実施いたします。

事故車両と同様の電気回路となっている全ての車両について、「万一、電気回路がショートした場合でも扉が開かない構造」に改修を行います。

改修を終えるまでの間は、電気回路の点検頻度を増やし、安全対策を強化いたします。なお、今回の事故と同様の扉の不具合が生じた場合は、ただちに当該列車の運行を中止いたします。

今回の事故はお客様の安全に係わる極めて重大な事故と認識しており、このような事故を起こしたことについて、深くお詫び申し上げます。

今後は、国土交通省航空・鉄道事故調査委員会の調査に全面的に協力するとともに、このような事故が二度と起きないように、安全運行に努めてまいります。

以 上

(参考)

大井町線事故発生経緯

発生日時 2006年3月11日(土)10時54分頃

発生場所 大井町線大井町駅より二子玉川方向(下り)へ約170m走行した地点(大井町～下神明間)

発生列車 大井町線大井町・10時51分発二子玉川行(5両編成)
東急8000系車両

乗車人員 約200人(乗車率約30%)

負傷者 なし

状 況

- (1) 10時51分に上記列車が大井町駅1番線から発車する際、運転士は扉が閉じていることを示すパイロットランプの点灯を確認し、ハンドルを力行位置(アクセル位置)に投入したところ、パイロットランプが消灯した。そのため、直ちにハンドルを非常ブレーキ位置にしたところ、パイロットランプが再び点灯(扉が閉じた)した。
(この間、列車は動いていないが、ホーム側(進行方向右側)の扉全てが、約30cm開いてすぐに閉じた)
- (2) 運転士と車掌が、扉に物などが挟まっていないことを確認し、再度ハンドルを力行位置に投入したところ同じ現象(パイロットランプの消灯・点灯)が再度発生した。
(ホーム側の扉全てが約20cm開いてすぐに閉じた)
- (3) 車両点検を実施し、運転士と助役が扉開閉に関連する機器を点検したが、異常は認められなかった。そのため、扉を閉じて10時53分頃、運転を開始した。
- (4) 大井町駅発車後、約170m走行した地点(この時の速度は約50km/h)で、パイロットランプが消灯したため、運転士は非常ブレーキを操作、さらに約100m進行して停止した。
(進行方向右側の扉が約60cm開いたが、非常ブレーキを操作したと同時に、閉じたことを車掌が目視していた。なお、この時、全ての車両の扉が同様に開いたものと思われる)

(5) 1 1 時 1 2 分、全扉を開扉しないようロックし安全を確保した上で、当該車両を大井町駅に戻し、お客さまに降車していただき、当該車両の運転を取りやめた。

以 上